52nd AMERICAN SOCIETY OF HEMATOROGY 2010 ; Orlamd, Florida December 4-7, 2010

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/27814

『学会見聞記』

第52回米国血液学会に参加して
52nd AMERICAN SOCIETY OF HEMATOROGY 2010 Orlando, Florida December 4-7, 2010

丸　山　慶　子
金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻
医療科学領域病態検査学　修士課程2年

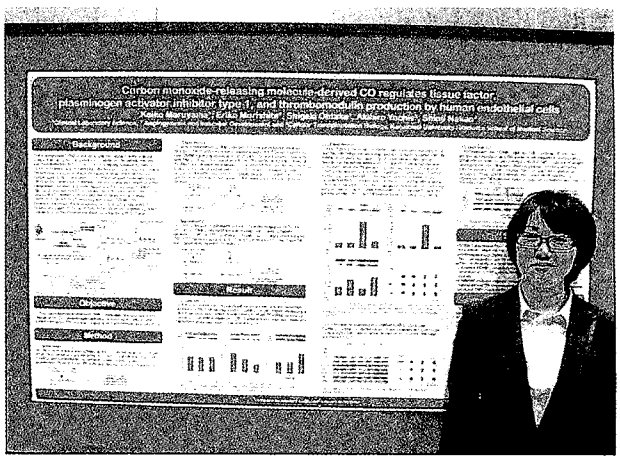
私は2010年12月4日から8日にかけて，アメリカフロリダ州オーランドで開催された第52回米国血液学会に参加しました．本学会は，参加人数が約2万人と多く，米国有数の血液学会です．この学会への参加は，国際学会初参加の私にとってすべてが経験したことのない出来事の連続で，とても有意義なものでした．

サンフランシスコを経由し，およそ13時間のフライトを終え到着したオーランドは，予想に反して寒い気候でしたが，金沢にはない空の青さが印象的なとてもきれいな街でした．学会会場であるオーランドコンベンショナルセンターはとても大きな建物で，人の多さとポスター会場のあまりの広さに圧倒されました．また，ポスター発表の演題数は1日1000題以上で3日間行われ，演題数の多さにも驚きました．口頭発表も特別講演，教育講演，シンポジウムなど広い会場のあちらこちらで行われていました．基礎から臨床研究まで様々な発表があり，活発な議論がなされていました．特に印象に残った講演は，Organ-Specific Iron Loading and Toxicityでした．我々も研究を行っているヘムオキシゲナーゼ－1の生体防御機構についての講演で，新たな発見や興味深い実験結果を聞くことができ,わくわくしましたが，同時に自分の知識や英語力のなさを痛感しました．

また，発表以外で印象深かったことは，企業による展示会の規模の大きさです．まるで1つのアミューズメントパークに来たのかと思うほどでした．

私は「Carbon monoxide-releasing molecule-derived CO regulates tissue factor, plasminogen activator inhibitor type 1, and thrombomodulin production by human endothelial cells」と題して，学会2日目にポスター発表を行いました．一酸化炭素が，炎症による凝固線溶系活性化に与える影響についての検討を行った報告です．一酸化炭素は一酸化炭素中毒の印象から生体に有毒であるとの認識が強いと思いますが，低濃度の一酸化炭素は生体防御に働くことがすでに報告されています．炎症がおこると，抗血栓作用を有する血管内皮細胞が傷害され，凝固活性化状態となり，血栓が形成されやすくなります．そこで，今回の検討では生体防御に働く一酸化炭素を炎症時に添加しておくと，凝固活性化状態を抑制し，血栓形成を制御する可能性が示されました．英語でのプレゼンテーションは初めてでしたので緊張しましたが，多くの研究者の方々の様々な角度から今後の研究のヒントとなる有意義な情報を得ることができました．

今回，国際学会に参加できたことは価値のある有意義な経験であったと思っています．それは，いろいろなことを感じ，これまでと今後の自分を見直すきっかけとなるたくさんの刺激を受けたからです．

さらに，この国際学会への参加は他の国へ行くことの楽しさも味わうことができました．文化の異なる国の活気ある町並みや人々を見ていると，自分の知らない世界が動いているという不思議さを感じることができ，世界の広さを実感できたような気がします．

国際学会への参加は初めてのことでしたので，戸惑うことも多く不安でしたが，大変楽しく充実した1週間でした．世界の研究のレベルを肌で感じることができただけでなく，世界中の研究者の濃厚な議論を直接聞くことができ，多くの刺激を受けました．今後，今の研究をさらに発展できるように，そしてまた米国血液学会で研究成果を報告できるように頑張らなければと思っています．